

ニホンザル体重測定対象個体の体長計測
および0歳仔の生残について
栗田博之(京都大・霊長類・生態機構)

野生霊長類のアカンボウの成長と母親の栄養
状況の変動との関係を調べるために、大分県
高崎山自然動物園において餌付けされている
ニホンザルを対象として以下の調査を行った。

1997年生まれのアカンボウとその母親の体
重を前年度から継続して測定し、母親の体長
(首から尻まで)を写真撮影により計測した。
また1997年生まれのアカンボウの生残率(生
後約1年以内)を調べた。

現在まだ分析中であるがこれまでに以下のこ
とがわかった。

1. アカンボウの成長は個体差が大きく、満
1歳時に軽い個体で1700gほど、重い個
体で2700gほどであった。
2. 1997年にA・C群でそれぞれ25個体、48
個体の出産があった。生残・消失が不明な
個体(A:2;C:5)を除くと生残率はA群で
87%、C群で91%であった。

今後はアカンボウの成長についての詳細とそれ
と母親の体重・栄養状態の変動との関係、および
オトナメス体重の季節変動の個体間変異につい
ての分析を進める予定である。

飼育下葉食性霊長類の日本産植物に対
する嗜好の栄養学的根拠
浜井美弥(日本モンキーセンター)

日本モンキーセンターで飼育されている7種
のコロボス類とニシローランドゴリラには、他の
飼育種にも与えられている飼料の他に、園内の樹
木から採集された新鮮な枝葉が毎日与えられてい
る。樹種は本来の生息地のものではなく、日本産
の常緑樹、落葉樹から選択されている。これまでの
飼育経験から決定された年間給餌スケジュール
の栄養学的な根拠を明らかにするために、落葉樹
の成葉季の始まり(6~7月)と終わり(10月)
に、飼料として利用されている落葉樹4種(ブラ
タナス、シダレヤナギ、イヌザクラ、マグワ)と
常緑樹4種(シラカシ、ヒサカキ、シャシヤンボ、
トウネズミモチ)、さらに現在は利用されていな
い落葉樹2種(ニセアカシア、リョウブ)の葉、
樹皮を採取し、栄養分析を行っている。

今後さらに、種による嗜好性の違いを明らかに
するため、採食中の行動観察を行い、常緑樹につ
いては冬季のサンプルも採取して分析を行う予定
である。